# 今月のトピックス「カンキツのヤノネカイガラムシについて」

#### 1 ヤノネカイガラムシとは

ヤノネカイガラムシはカンキツの重要な 害虫のひとつです、カンキツ類にしか寄生し ませんが、ユズ、カボス、スダチなどでは寄 生しても発育しません。雌成虫の介殻は紫褐 色~灰紫褐色、長さ 2.5~3.5mm で、形状は 弓矢の矢の形をしており名前の由来となって



写真 1. 雌介殻(赤丸実線)と 雄介殻(青丸点線)

います。雄幼虫・蛹の介殻は白色で細長く、長さ約 1.5 mm、主に葉裏に群れを作っています(写真 1)。雄成虫は翅を持ち、雌とは全く異なった形態をしています。

#### 2 カンキツでの被害について

ヤノネカイガラムシは葉、枝、果実に寄生して加害し、大きな被害を与えます。葉や枝での寄生密度が高くなると、葉とともに枝も枯れ、ひどい場合には樹全体を枯らすことがあります。果実に雌が寄生すると、定着した部分が着色不良、肥大阻害を起こし、いわゆる「ゴマミカン」となって商品価値が下がります。

## 3 ヤノネカイガラムシの発生生態

表.ヤノネカイガラムシ幼虫発生期(三重県)

世代	初 発 期	最 盛 期	終期
第 1 世代	5月 上旬	6月 中旬	7月 下旬
第 2 世代	7月 中旬	8月 中旬	10月 上旬
第 3 世代	9月 中旬	10月 中旬	11月 中旬

ヤノネカイガラムシは年3回発生します (表)。越冬はほとんどが雌成虫で行われます。第1世代の発生時期は、その年の2月以 降の気温によって大きく左右され、年により 発生時期に2週間程度の差が見られること があります。

孵化直後の1齢幼虫は微少で橙黄色、扁平、 楕円形です(写真2)。雌幼虫はしばらく歩行 して、新葉や果実に単独寄生します(写真3)。 雄幼虫は母虫である雌介殻の近くに集団を作 って定着します。



写真 2.1 齢幼虫(青丸点線)と 母虫の雌介殻(赤丸実線)

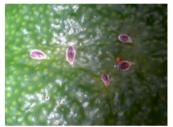


写真3.果実上の雌

### 4 防除のポイント

ヤノネカイガラムシは他のカイガラムシに比べて被害が大きく、果実への寄生を防止するためにも、低密度での防除が必要です。第2世代以降は発生が長期間にわたるので、防除適期が絞りきれません。このため、越冬世代と第1世代を対象とした防除が効率的です。

越冬期の防除は第1世代の発生量を少なくするのに有効です。例えば、 温州みかんでは冬期にマシン油剤を生息場所である葉裏に十分散布します。

第1世代の防除適期は、1齢幼虫初発日から35~40日後で、幼虫発生最盛期となる6月中旬頃です。第1世代の発生時期は地域、気温によって大きく異なるので、幼虫の初発に注意して防除時期を決めることが大切です。なお、薬剤防除にあたっては、登録内容をよく確認して実施してください。

(写真は、農業研究所:鈴木賢氏提供)